



但馬水産技術センターだより



漁況情報 (G2225号)

令和4年8月2日

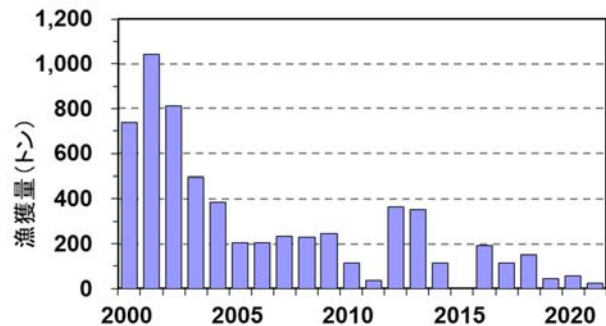
兵庫県立農林水産技術総合センター
但馬水産技術センター 発行

令和4年(2022) ソデイカ漁期に向けた漁海況情報

今年度のソデイカ漁期に向けて海況などの情報を参考にお知らせします。

1. 来遊資源の状態

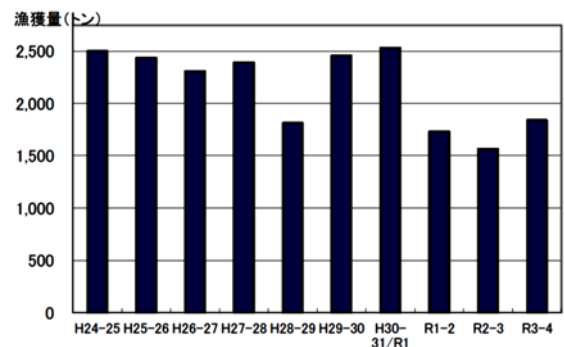
来遊資源量のひとつの目安となる漁獲量の変動は日本海の各府県間で非常に似通っており、本県の漁獲量が多いときは他府県の漁獲量も多く、本県が少ないときは日本海その他府県でも少なくなる傾向があります。日本海のソデイカ資源は大きくひとつとして捉えることができるようです。



兵庫県におけるソデイカの漁獲量は、2000年前後には年間1,000トンを上回ることもありましたが、直近10カ年(2012～2021年)の年間漁獲量は2.3トン～363トンと年変動が大きく、来遊資源が不安定です。2021年(R3年)漁期の漁獲量は23トン(前年比42%)で、過去10年間で2番目に少ない漁獲量でした。

2. 沖縄県の漁況

日本海で漁獲されるソデイカは、1～9月に発生し(盛期は2～3月)、対馬暖流の上流部から成長しながら来遊してくる資源と考えられています。



沖縄県の漁獲量と但馬の漁獲量とは必ずしも連動しませんが、沖縄県の2021-22年漁期(令和3年12月～令和4年5月)の漁獲量は1,838トン(前年漁期比118%)で、過去10漁期では4番目に少ない漁獲量でした。

(沖縄県漁獲量：出典 沖縄県水産海洋技術センター、<https://www.pref.okinawa.jp/fish/kenkyu/kobutu/sodeika.html>)

3. 対馬海峡の環境

ソデイカは南方から対馬海峡を通過して日本海へ来遊します。来遊時期と考えられる6月の対馬海峡部の環境は次のとおりです。対馬暖流の勢力は水温や流量(潮位差)などから概ね強かったことが示唆されます。

- ① 水深 10m と 20m の平均水温（対馬東水道の 5 定点の平均、6 月 0 日補正值）は 20.4℃で、平成元年以降で最も高い値。
- ② 厳原験潮所（長崎県対馬）の 6 月の平均潮位は 1.93m で、平成元年以降（欠測の R2 年除く）で最も高い値。
- ③ 流量の指標となる博多験潮所（福岡）と厳原の潮位差は 5.3cm で、平成元年以降（欠測の R2 年除く）で 10 番目に高い値。

また、気象庁の「対馬暖流の勢力の時系列」では、概ね 4 月後半から 5 月前半は平均より低く推移していましたが、5 月後半以降は勢力が強まり、平均並みもしくはそれ以上で推移しています。

（水温ほか：出典 佐賀県玄海水産振興センター観測結果）

（潮位：出典 第七管区海上保安本部、https://www1.kaiho.mlit.go.jp/KAN7/kencyo7/about_tos/tideobs.html）

（対馬暖流の勢力：出典 気象庁、http://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/db/kaikyot/tsushima/tsushima_area.html）

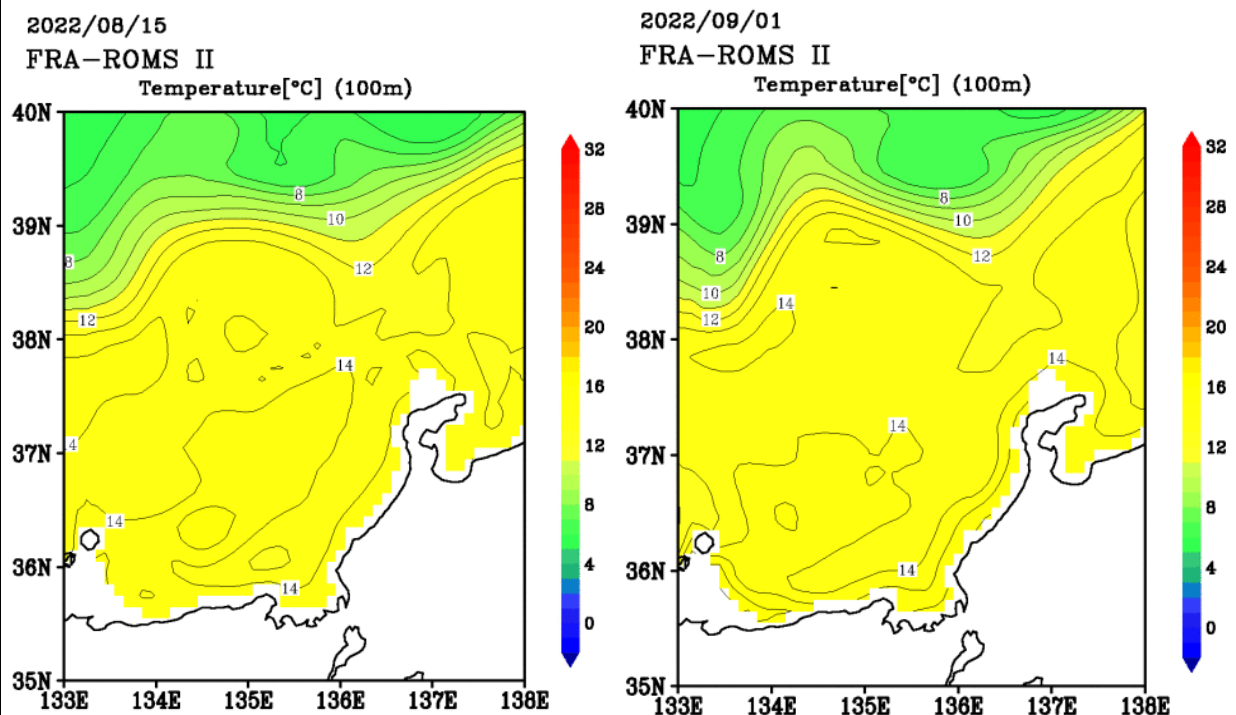
4. 日本海海況(水温や冷水域の配置)予報(2021 年 7 月中旬～9 月)

これまでの調査結果から但馬沖の好漁場は水深 50 m の水温が 19℃以上、水深 100 m の水温が 14～15℃以上の海域に形成されることが分かっています。6 月の山陰・若狭沖の冷水域は「かなり小さい」、接岸状況は「はなはだ離岸」でした。7 月中旬から 9 月にかけての予報は次のとおりです。

- ① 山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、規模は「平年並み」、接岸状況は「かなり離岸」で経過。
- ② 対馬暖流域の表面水温は「やや高め」、50m 深の水温は日本海西部及び北部でともに「平年並み」で経過。

（出典 国立研究開発法人水産研究・教育機構、<http://www.fra.affrc.go.jp/pressrelease/pr2022/20220708/index.html>）

（参考）改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMS II）で予測された中部日本海の 100m 深の水温分布図（8/2 出力：左が 8/15 の予測図、右が 9/1 の予測図）



5. エルニーニョ/ラニーニャ現象

エルニーニョ現象は太平洋赤道域の中部から東部の南米沿岸にかけて海面水温が平年より高くなり、その状態が1年程度続く現象です。これとは逆に、同じ海域で海面水温が平年より低い状態が続く現象はラニーニャ現象と呼ばれます。

エルニーニョ現象の発生時は西日本では夏（6～8月）、秋（9～11月）の平均気温はともに低い傾向がみられます。1993年や2015年といった冷夏の年には対馬海峡から日本海に來遊するソデイカが少なかった事例がありました。

気象庁によると2022年6月実況はラニーニャ現象（日本付近では、夏季は太平洋高気圧が北に張り出しやすくなり、気温が高くなる傾向）が昨年秋から続いている状態であるとみられ、2022年7月～2023年1月の見通しは、夏の間は平常の状態になる可能性もありますが、秋の終わりまでラニーニャ現象が続く可能性の方が高い見込みとなっています。

（出典 気象庁 https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/elnino/kanshi_joho/kanshi_joho1.html

<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/data/elnino/learning/index.html>）

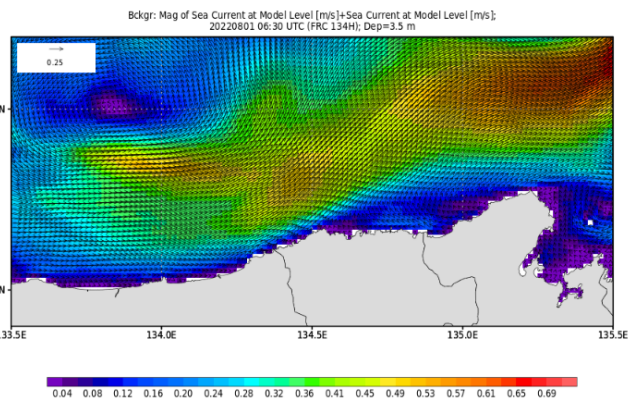
6. その他

例年、6～7月頃より但馬地域の定置網などで小型のソデイカの混獲が始まり、この時期に混獲が多い年はその年のソデイカ漁が好漁となる傾向が見られます。混獲に関連する情報がありましたら、但馬水産技術センターまでお知らせください。

漁期開始後の漁場形成は、漁場周辺の水温や冷水域の動向などにも大きく影響を受けます。当センターのホームページでは、九州大学応用力学研究所が中心となって開発した流況予測モデル（DREAMS）の計算結果を簡便に閲覧できる海況予測【DREAMS コマンダー（兵庫版）：下図左（入力画面）、下図右（表示例）】（https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/ryuukyoku_menu/）を公開していますので、併せてご参照ください。

マップ		DREAMS-C コマンダー (© 2019 京都府森林水産技術センター 但馬センター)	
日本時間	2022年8月1日 15時30分	前へ	表示
世界標準時	2022年8月1日 6時30分	表示	次へ
水深	3 m	表示項目	* 流況 ○ 水温 ○ 塩分
表示地域	<input type="radio"/> 広域 <input type="radio"/> 鳥取東部 <input type="radio"/> 鳥取西部 <input checked="" type="radio"/> 兵庫沿岸	表示方法	* 相対表示 (カラースケールが変動します) * 絶対表示 * 流速のみ (カラースケールは最大 0.75m/s (約1.5ノット) に固定されます)

※ 以下の表示は九州大学応用力学研究所のサイトのページ内容です。利用の際は同サイトの規約にしてください。



※本資料の作成には、「佐賀県玄海水産振興センター」、「沖縄県水産海洋技術センター」、「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所」、「第七管区海上保安本部海洋情報部」、「気象庁」、「九州大学応用力学研究所」からご提供いただいた資料や公開情報の内容を含んでいます。海況予測には、「国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所」の改良版我が国周辺の海況予測システム（FRA-ROMS II）を利用しました。記してお礼申し上げます。

お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（担当：鈴木）

TEL：0796-36-0395 FAX：0796-36-3684

E-mail：nouringc_tajima@pref.hyogo.lg.jp

HP：http://www.hyogo-suigi.jp/index.htm